

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 福井県 A監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国、ミャンマー

【実習生の職種】紡績運転、織布運転、ニット製品製造、たて編ニット生地製造、婦人子供服製造

【ポイント】 ✓日本語の月例試験及び一斉試験により、実習生の日本語学習を支援

### 日本語月例試験の実施

実習生の受入れ当初から、実習生に対し、日本語学習の支援として、日本語試験を実施している。毎月1回、監理団体が作成した問題と回答を実習先企業に送付し、試験と添削を依頼している。実習先企業が添削できない場合は、答案を返送してもらい、監理団体が採点等をして、実習先企業に結果をフィードバックしている。

### 日本語一斉試験及び生活指導

日本語月例試験の仕上げとして、年に2回、大学の講堂等を借りて、日本語一斉試験を実施している。試験は筆記45分（A3用紙2枚程度・選択肢形式）、ヒアリング15分の内容で行い、成績優秀者には表彰を行っている。また、試験終了後にゴミの分別方法などについて、生活指導を行っている。生活指導のテーマは、実習先企業や地域社会で課題にあがっているものから選んでいる。

### 課外活動の実施を支援

課外活動について、「日本の文化を学べる機会となるもの」と「日本人や日本社会との交流の機会となるもの」というテーマで、年1回の実施枠を各実習先企業に設定し、実習先企業に補助金（参加者1名あたり2,000円）を支給している。支給対象とするか審査する必要があり、労力を要するが、この制度により、実習生が自分たちだけでは参加する機会のないイベント等にも参加できるなど、日本の文化の知識習得にも役立っている。

日本語一斉試験



日本語一斉試験表彰式



# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 愛知県 B監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国、インドネシア

【実習生の職種】耕種農業、鉄筋施工、とび、配管、建設機械施工、パン製造、そう菜製造業、染色、婦人子供服製造、機械加工、金属プレス加工、鉄工、機械保全、印刷、プラスチック成形、塗装、溶接、ビルクリーニング他

【ポイント】 ✓日本語能力試験の問題を参考にした日本語テストの実施により、実習生の学習意欲及び日本語能力が向上

### 実習生の日本語学習を支援

監理団体傘下の実習先企業では、実習生に対して、定期的に日本語教室を紹介している。また、監理団体が作成した日本語テストを受けてもらい、実習生の学習意欲を向上させている。

また、監理団体では、実習生の住所地の市役所に日本語教育についての情報（実施場所、受講期間、申込み方法など）を問い合わせ、実習先企業を通じ実習生に案内をしている。加えて、日本語能力試験の受験を希望する実習生には、受験の申し込みを代行している。

### 日本語テストの実施

日本語テストは日本語能力試験N4レベルの試験問題を参考にして作成し、年に3～4回、実習先企業にて実施している。日本語能力試験の各科目（言語知識（文字・語彙）、言語知識（文法）・読解、聴解）について、6パターンの問題を作成して、同じ問題を出題しないよう配慮して出題している。試験本番と同様に足切り点も設定している。日本語テスト終了後、監理団体が採点をして、結果を一覧表にした上で実習先企業にフィードバックしている。また、成績上位10名の実習生には奨励金を支給しており、それを目標に頑張る実習生もいる。

このテストで良い点を取れるようになれば、日本語能力試験に合格できる力がついているので、実習生の日本語能力の向上に役立っている。実際、日本語能力試験を積極的に受験する実習生が増えており、N3レベルの合格者も多数出るようになった。その結果、技能実習において、日本語で円滑なコミュニケーションが取れるようになるなど、良い効果が表れてきていると考えている。

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 東京都 C監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、モンゴル、ミャンマー  
【実習生の職種】建設、繊維・衣服、溶接

### 【ポイント】

- ✓地元のマラソン大会へボランティアとして参加することにより、地域に貢献するとともに地域の一員として活動できたことで、日々の実習にも意欲が高まった
- ✓地元の様々な文化体験を通じ、方言を話すようになるなど地域に馴染むようになり、実習実施者の社員とも良好な信頼関係が築けた

地元のマラソン大会へボランティアスタッフとして参加し、地域へ貢献

給水スタッフとして参加



写真①

「なまはげ変身」体験



写真②

竿燈祭り参加



写真③

傘下実習実施者のD社は地域への貢献を大切にしており、毎年、地元のマラソン大会に、社員有志がボランティアスタッフとして参加している。ベトナム人実習生も大会サポートユニフォームを着用し、給水スタッフとして大会運営をサポートした(写真①)。実習生からは、「雨の降る中でのボランティア活動だったが、楽しかった。次回からはランナーとして参加したい。」との前向きな発言もあった。実習生たちは、自分たちの実習実施者が地域に根ざした企業であることを理解し、自分たちも地域の一員として活動できたことで、日々の実習への意欲も高まった。

実習実施者の社員とともに地元の様々な文化イベントをすることにより、良好な関係を構築

寿司作り体験

秋田県の傘下実習実施者のE社は地元の様々な文化イベントを行っている。平成29年3月入国のベトナム人実習生3名は当該企業に配属になった後、社員2、3名と共に、地域の文化紹介施設での「なまはげ変身」体験をしたり、竿燈祭りや地域の町内会主催の寿司作り体験に参加した(写真②③④)。これらの体験等を通じ、実習生たちは地元の男鹿方言を話すようになるなど地域に馴染むようになり、また、こうした取組により、社員と実習生の関係がとて良くなり職場での信頼関係も構築された。



写真④

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 富山県 F監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国

【実習生の職種】食料品製造

【ポイント】  
✓地元の祭りへの参加を通じて、市民と交流することで、お互いを知る機会となっているほか、実習生の自発的活動の場にもなっている  
✓入国後講習で仲良くなった実習生が実習期間中のバス旅行で再会し、旧交を温めるとともに今後の実習への活力となっている

実習生の屋台と調理した春巻



写真①



写真②

観光協会主催の祭りへの出店を通じ、地域交流をするとともに、達成感を得られた

富山県滑川市観光協会主催の「ベトナム・ランタンまつりinなめりかわ」は、ベトナムの古都ホイアンで行われるランタン祭りを参考にしたイベントで、毎年夏に開催されている。祭りには地元のグルメやベトナム料理の屋台などが並び、ベトナム民族音楽のコンサート、民族衣装の試着体験なども行われている。

平成29年から、ベトナム人実習生の希望で祭りに参加することになった。祭りにはベトナム春巻き屋台を出店することになったが、監理団体のスタッフ、傘下企業のサポートのもと、実習生が主体となって計画を立て、メニューや仕入れの量などを決めた（写真①、②）。平成29年、30年は、各年10名の実習生が屋台の運営に参加したが、参加希望者が多く順番待ちとなっている。

実習生が祭りに参加することによって、地域住民はベトナム料理を楽しめるだけでなく、実習生との交流も生まれるなど、実習生のことを知るよい機会となっている。また、実習生も地元に対する愛着心が生まれる上、自分たちで屋台を運営したという自信や達成感により、技能実習の意欲向上にもつながっている。

日帰りバス旅行での再会、実習意欲向上へ

実習期間中に1回、観光バスをチャーターして日帰り旅行を実施している。参加費は、監理団体と傘下企業の共済金により賄っている。

入国後の講習期間中に仲良くなった実習生たちは、バス旅行で久しぶりに再会し、旧交を温めるとともに、お互い、今後の実習を頑張っていこうという意識を共有する機会となっている。

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

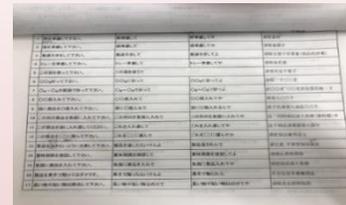
## 愛媛県 G監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国、タイ、ミャンマー

【実習生の職種】食料品製造、農業

### 【ポイント】

- ✓実習生が来日して最初に取り組むべきことを「日本語の習得」とし、実習生自らが日本語学習に取り組めるよう、積極的にサポート
- ✓実習生と実習実施者との交流会を開催することにより、職場ではなかなか話せない家族の話などもでき、お互いの距離が縮まり信頼感が増した



写真①

母国語訳のみならず、地元の方言による言い回しも併記した単語帳



写真②

日本語能力検定受検の奨励、実習で使う日本語文例集の配布などにより日本語学習をサポート

交流会で実習指導員とも打ち解けられ、実習でも良い効果が。

年2回の受検に向けて、監理団体から実習生に対し母国語で案内文を送付し、受検申込のサポートをしている。また、監理団体で検定の問題集を購入して配布するほか、プラスアルファの教材として、実習生の母国の日本語教材を購入し、本人のレベルに合わせて配布している。さらに、実習で使う日本語は実習実施者によって異なるため、監理団体が実習実施者ごとに文例集を作り、それには母国語の翻訳のみならず、地元の方言の言い回しも載せ、実習生に配布し、スムーズに実習が行えるようサポートしている(写真①)。

実習生の発案による交流会の開催で親睦を深めることにより、職場においてもお互いの信頼が増す

料理を前に挨拶

ベトナム人実習生が、実習実施者に対する日頃の感謝を込めて、母国の料理を作り交流会を開催したいと発案し、監理団体職員も準備や通訳などでサポートし実施にこぎつけた。

実習実施者の専務が料理の味を褒めると、実習生はとても喜び、母国の文化に誇りを持つことができた(写真③)。

また、交流会において、普段は少し距離があった実習指導員から家族のことなど個人的な話も聞くことができ、お互いの人となり分かることにより距離が縮まり、信頼感も増した(写真②)。

このように交流会の開催により、社員と実習生の親睦を図ることができ、互いの文化を知る機会にもなっている上、職場での雰囲気良くなるなどの効果も出ていることから、平成30年に始まった交流会を今後も続けていこうと考えている。



写真③

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 北海道 H監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、インドネシア、フィリピン

【実習生の職種】とび、配管、防水施工、表装、建設機械施工、そう菜製造業、機械加工、鉄工、めっき、仕上げ、塗装、溶接、自動車整備、介護他

【ポイント】 ✓定期的に日本語のオンラインレッスンを実施、日本語能力試験N3合格までサポート

### 日本語教師によるオンライン日本語講習の実施

実習生が日本語を学ぶことによって可能性を広げてほしい、そして、日本を好きになってほしい、帰国後、日本との架け橋になってほしいという思いから、監理団体では日本語教育に力を入れており、日本語能力試験のN3合格までサポートしたいと考えている。

監理団体は有資格者の日本語教師と業務委託契約を結び、日本語を勉強したいという実習生に対して、週に1回1時間、SNSを利用したオンラインレッスンを実施している。オンラインレッスンは教師1人に対し最大5名までの少人数制としており、実習生は、それぞれの場所で一斉に受講している。教材には「みんなの日本語」、「大地」、「働くための日本語」など市販のテキストを使用し、簡単な日常会話から日本語能力試験対策まで、実習生のレベルに応じた内容になっている。

監理団体では実習生がレッスンの受講を忘れないようレッスンの前日と当日にSNSで連絡をしている。また、実習先企業にも実習生に声をかけてもらうよう協力依頼している。日本語教師には毎回、日本語講習実施報告書を作成してもらっているが、その報告書により、実習先企業の担当者から実習生にレッスンで取り上げたテーマや内容についての話をしてくれるので、復習にもなっている。

### オンラインレッスンの効果

国籍や実習先企業が異なる実習生と一緒にレッスンを受けることで、実習生同士の交流が生まれ、実習に対する意欲が湧くなど良い機会となっている。日本語が話せるようになると、実習現場で働く日本人社員とコミュニケーションが取れるようになり、日本への関心も高まる。私生活においても、やりたいことができたり、行きたい所に行くことができるなど役に立つ。実際に実習生だけで東京に行った時、帰りの飛行機が欠航したが、情報収集など自分たちで対処し無事に帰って来た。これは日本語で意思疎通が図れるようになった効果である。また、日本語教師は心のつながりを大切にしたレッスンをしているため、実習生のメンタルヘルス対策にもなっている。

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 千葉県 I 監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、カンボジア、中国

【実習生の職種】冷凍空気調和機器施工、とび、石材施工、タイル張り、左官、配管、防水施工、塗装

【ポイント】  
✓ SNSを通じ、実習生個々のレベルや目的に応じたきめ細やかな日本語学習支援を実施  
✓ 実習生に技能実習以外にも目標をもってもらい、モチベーションを向上させる

SNSを通じて個別に日本語学習を支援

監理団体職員として、実習生の生活指導や相談業務に当たっているベトナム語の通訳人はSNSを通じ、実習生に対して個別に日本語学習を支援している。特に日本語能力試験合格を目指している実習生とは毎日連絡を取り、質問への回答や勉強方法のアドバイスだけでなく、実習生からテキストの学習箇所を写真に撮って送信してもらうことで、進捗状況も確認している（写真①）。また、日本語が上手く話せないため、実習中によくトラブルを起こしていた実習生に対しては簡単な日本語のテキストを作成した。そして、毎日テキストを音読したものを録音してもらい、その発音をチェックして、アドバイスを与えるなど、実習生一人一人の語学レベルや目的に応じた、きめ細やかな日本語学習の支援を行っている。監理団体では傘下実習実施者に実習生が学習しているテキストの写真を送って情報を共有したり、日本語能力試験の受験料負担や実習生の寮に日本語学習用のテレビを設置してもらうといった協力についてもお願いしている。日本語学習の支援を始めてからは、実習生とのコミュニケーションに起因する実習実施者からのクレームが確実に減ってきている。実習生からも「実習が楽しくなってきた」、「ストレスがなくなった」という嬉しい報告がある。

実習生のモチベーションアップを図るために将来の目標を設定

実習生には「帰国してから役に立つような技術や知識を身に付けた方が良い」、「母国で就職した時には日本語が話せると給料が高くなる」というような話をして、実習生のモチベーションを高めている。また、将来の自分をイメージして具体的な目標設定をするようアドバイスもしている。

写真①



SNSで進捗状況をチェック

写真②



監理団体作成のテキスト等

写真③



# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 山口県 J 監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国  
【実習生の職種】とび、建設機械施工、加熱性水産加工、食品製造業、  
非加熱性水産加工、そう菜製造業

【ポイント】 ✓Web会議システムを導入して、実習生の寮で日本語の講義を実施  
✓報奨金制度により、実習生が自主的に日本語の勉強をするようになった

### Web会議システムを利用した日本語の遠隔教育

写真①



受講中の実習生

写真②



講義中のベトナム人講師

監理団体では2019年1月から実習生の宿泊する全ての寮にWeb会議システムを導入して、来日1年目の実習生を対象に日本語教育を行っている。一つの寮において、実習生6名までを1グループとし、約10グループを1クラスとした上で、日本語講師が同時にモニターに映し、授業を行っている（写真①、②）。授業ではテキストのほか、実習現場で使用する用語をまとめた「絵カード集」を作成して、教材としている（写真③）  
また、1か月に3回テストを実施し、成績が良くない実習生には補習を行っている。

### Web会議システムのメリット

- ・実習生は日本語講師がいる場所まで行かなくても、自分の寮で受講ができる（移動時間や交通費が不要）。
- ・一度に講義を受けられる人数を増やせる。
- ・寮にいる実習生の現在の状況が見られるので、実習生の安否や健康状態を確認することができる。
- ・日本語の講義だけではなく、各寮の実習生とのコミュニケーション・ツールとしても活用できる。

### 報奨金制度

監理団体では日本語能力試験の合格者に対して、受験料と報奨金を支給している。試験に早く合格すれば、報奨金が高額になるよう設定している。実習生は自主的に日本語を勉強するようになり、日本語能力試験も積極的に受験するようになった。

写真③



絵カード集

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 沖縄県 K監理団体

【実習生の国籍】インドネシア  
【実習生の職種】漁船漁業

【ポイント】 ✓実習生が海神祭（ハーリー）に参加するようになってから、4年が経過し、漁業関係者や地域住民との交流が深まるなど良好な関係が築かれている

### 地域祭りに参加する技能実習生

毎年旧暦の5月4日、八重山地域のマグロ漁が一息つく時期に航海の安全や豊漁を祈願する伝統行事の海神祭（ハーリー）が開催される（写真①、②、③）。海神祭では爬龍船による競漕が行われ、水産関係者だけでなく、一般の団体も数多く参加し、順位を競い合う。監理団体傘下の全ての実習実施者は4年前から実習生と一緒にハーリーに参加している。実習生はチームを2つ作り、団体ハーリーレースに2隻出場している。また、実習実施者が中心となり、実習生がハーリーで着用するチームTシャツを作成した。ハーリーの練習は海神祭の1週間前から許可されるので、実習実施者がその期間の実習を調整し、毎日4時間集中して練習ができる環境をつくった。ハーリーに2つのチームを出場させることで、チーム間の競争心をあおるだけでなく、チームメンバーの団結力が生まれ、協調性も高まる。毎年、海神祭に実習生が参加することで、地元住民の実習生に対する認知度が上がり、地域住民の一員として受け入れてもらえるようになった。海神祭が終わった後の祝賀会には実習生も参加し、地域住民と一緒に踊ったりして親睦を深めている。また、ある実習実施者は成人式を迎える実習生に日本の儀式を体験してもらいたいとの思いから、スーツを新調して成人式に参加させている。

### 日本語教育の支援

船内での技能実習は日本語が必要とされるため、監理団体では定期的に沖縄本島から通訳人を呼び、日本語の指導をしてもらったり、日本語能力試験の受験機会を与えるなど積極的に日本語の支援を行っている。実習生は日本語で漁港関係者だけでなく、地域住民にも積極的に挨拶をするなど交流を深めており、良好な関係が築かれている。

写真①



写真②



写真③



# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 愛知県 L 監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国、インドネシア、カンボジア

【実習生の職種】耕種農業、建築大工、鉄筋施工、とび、配管、機械加工、金属プレス加工、プラスチック成形、塗装、溶接、工業包装、ビルクリーニング、介護等

【ポイント】 ✓バーベキュー大会を開催して、技能実習生が日本の文化を学べるよう体験会を企画、地域社会との交流を行う機会も提供

年に2回バーベキュー大会を開催し、地域住民との交流の場を提供

毎年4月と9月に市の公園施設を利用して、バーベキュー大会を開催している。バーベキュー大会には実習生、実習先企業だけでなく、地域住民にも参加してもらっている。バーベキュー大会は実習生の日本文化の体験及び地域社会との交流を目的としているため、地域の人に声をかけて、様々な体験会を開いてもらっている。体験会は毎回趣向を凝らしたものとなっており、これまでに茶道体験、忍者体験、ゆかた・着物試着会、琴の演奏会などが行われた。また、監理団体にギターを弾き語りをする職員がいたことがきっかけで、「日本の歌ミニコンサート」も開催した。コンサートの曲目は実習生の母国で流行していた日本の歌や母国の民謡などで実習生有志と一緒に演奏をした。観覧する実習生には、ひらがなの歌詞カードを配付して一緒に歌ってもらった。

バーベキュー大会で日本語能力試験の受験案内と合格者表彰

バーベキュー大会は日本語能力試験の申込期間に合わせ開催するようにしている。実習生にバーベキュー大会開催の連絡をする際には日本語能力試験の受験案内情報も提供している。バーベキュー大会当日にも日本語能力試験についてのアナウンスをするなど、監理団体では受験を推奨している。そして、合格者の表彰式も行っており、副賞としてN4の合格者には米40kg、N3の合格者には米60kg、N2の合格者には米80kgを贈呈している。今後、受験費用についても実習先企業と協力して支援することを考えている。監理団体では実習生に「日本語能力試験のN4やN3を取得することにより、母国に帰ってから日系企業にも有利に就職できるようになるし、給料も多くなるようになる。せっかく、技能実習生として日本に来たのだから、技術と日本語を身につけて帰国してもらいたい。お金はいずれ無くなってしまうものだが知識は無くなりません」という内容の話をしている。

実習意欲や作業効率の向上に寄与

実習先が異なる実習生が、バーベキュー大会で一堂に会することにより、情報交換ができ、技能実習生同士で楽しい時間を過ごすことで、精神的な面でも良い結果となって現れている。普段の生活では、日本文化に触れる機会が少ない実習生に、いろいろな体験をしてもらうことにより、日本を好きになってもらえると考えている。監理団体では入国後講習期間中に日本語の重要性やバーベキュー大会を通じて日本語能力試験に関する情報発信をしているので、徐々に受験者と合格者が増えている。実習実施企業と実習生が気さくに話すことができる場があることは、実習意欲の高まり、作業効率の向上にも寄与しているものと思われる。今後、より多くの実習実施企業に協賛してもらい、新しい企画により実習生にもっと楽しんでもらえるようなバーベキュー大会にしていこうと考えている。

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 千葉県 M監理団体

【実習生の国籍】中国、フィリピン  
【実習生の職種】鋳造、機械保全

【ポイント】 ✓技能実習生に日記を書いてもらうことにより、技能実習生の日本語が上達、コミュニケーション活性化にも寄与

### 実習生の日記の添削・コメント

監理団体では、技能実習生の受入れを開始した時から、実習生の日本語能力向上と実習生とのコミュニケーションを図るため、実習生に日記を書いてもらうという取り組みを行っている。

監理団体から実習生全員に日記用のノートを配布して、週に1回、その週に起こった出来事や日々の思いなどを日本語で書いてもらい、毎週月曜日に提出してもらうことにしている。そして、監理団体の担当者が日記に書かれた日本語の文章を添削し、コメントを付けた上で実習生に返している。

また、日記の内容は実習実施先企業の担当者にも伝え、情報共有をしている。

### 日記の効果

日記を通じて、実習生の日本語の学習状況や日常生活の様子を窺い知ることができる。「お腹が痛かった」など体の調子や「実習生の間で喧嘩しているようだ」など人間関係についての情報を把握することもある。その場合、すぐに実習実施先企業と監理団体の担当者が実習生に声をかけるようにしている。

また、日記を毎回しっかりと書く実習生は日本語の文章がどんどん上達して、会話もできるようになってくる。

### 日本文化の体験学習

監理団体では、技能実習生が日本の文化を学べるように体験学習を実施している。前回は実習先企業の社長や役員も一緒に参加してもらい、日光・鬼怒川を訪問した。実習生は鬼怒川ライン下りや日光の神社仏閣など様々な日本文化の体験を楽しんでいた。

実習先企業の参加者からは、「実習生は遠方へ出かける機会が少なく、出かけるにしても交通費など費用もかかる。監理団体が実施する体験学習のおかげで、実習生は日本の有名な観光地を訪れることができるので、日本での良い思い出になると思う。」、「技能実習中の実習生にとって、体験学習は日常の実習生活から離れ、気分転換にもなる。」、「技能実習中には見られない実習生の一面を垣間見ることができ、参加してよかった」などといった感想が聞かれた。

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 東京都 N監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、ミャンマー  
 【実習生の職種】建築大工、鉄筋施工、内装仕上げ施工、溶接等

【ポイント】 ✓実習生の日本語能力向上のため、様々な日本語の宿題を課すなど、  
 実習生の日本語学習を支援

### 日本語学習支援の目的・概要

技能実習生に関するトラブルの多くは日本語能力不足に起因していると考えられるため、監理団体では日本語学習の支援に力を入れている。  
 毎月の実習先訪問時に実習1年目から3年目の実習生を対象として、下記の宿題を課している。

1. テーマを決めた作文
2. 「最近コミュニケーションを取った日本人」について
3. 日本語基本例文の暗唱と翻訳
4. 漢字練習

### テーマを決めた作文について

実習生が入国後の2ヶ月目から30ヶ月目まで、それぞれの時期に合ったテーマの作文を課し、添削をしている（写真①）。毎月2つのテーマから1つを選択してもらい、A4用紙1枚に書いてもらっているが、文字数が少なかった場合は、もう1つのテーマでも書いてもらっている。この作文は実習生の気持ちを理解することにも役立っている。「仕事で困ること」、「仕事で辛いこと」など悩みを聞き出すようなテーマも用意しているので、作文を読んで必要な場合は労働環境の改善を求めするなど、実習生の心理的なケアやサポートをするようにしている。

写真①

作文テーマ					
回	入国後	テーマ	回	入国後	テーマ
1	2ヶ月目	私の帰国後の目的	16	17ヶ月目	先輩のこと
		不安なこと			私の来日の目的
2	3ヶ月目	わからないこと	17	18ヶ月目	母国の習慣
		楽しいこと			好きな食べ物
3	4ヶ月目	私の仕事	18	19ヶ月目	嫌いな食べ物
		疲れること			感謝すること
4	5ヶ月目	休日の過ごし方	19	20ヶ月目	帰国してしたいこと
		大好きな人			言いたい事
5	6ヶ月目	尊敬する人	20	21ヶ月目	日本と違う習慣について
		日本に来て学んだ事			日本の老人でかんじること
6	7ヶ月目	日本の優れたところ	21	22ヶ月目	改めて欲しいこと
		母国の優れたところ			一番したいこと
7	8ヶ月目	母国人について	22	23ヶ月目	好きなテレビ番組
		日本人について			提案したいこと
8	9ヶ月目	自分の趣味	23	24ヶ月目	将来の自分について
		仕事で困ること			怖い人・優しい人
9	10ヶ月目	好きなスポーツ	24	25ヶ月目	自分の短所
		時間があればしたいこと			自分の長所
10	11ヶ月目	感謝すること	25	26ヶ月目	家族のこと
		心配なこと			辛抱していること
11	12ヶ月目	友達について	26	27ヶ月目	日本の優れた技術
		しかられたこと・ほめられたこと			仕事で楽しいこと
12	13ヶ月目	生活で困ること	27	28ヶ月目	仕事で辛いこと
		日本人の仕事の仕方			好きな日本語の言葉
13	14ヶ月目	母国人の仕事の仕方	28	29ヶ月目	母国の家族に感謝すること
		自慢したいこと			会社のみなさんに感謝すること
14	15ヶ月目	前の自分と変わったこと	29	30ヶ月目	半年後、帰国すること
		日本に来て、よかったと思うこと			
15	16ヶ月目	心配なこと			
		わからないこと			

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 東京都 N監理団体

### 「最近コミュニケーションを取った日本人」について

実習生が日本語を話す機会を増やし、日本人とのコミュニケーションを促進するため、毎月、実習生に「最近コミュニケーションを取った日本人」について、A4用紙に話の内容や感想等を記入し提出してもらっている。初めのうちは日本人社員の方から話しかけたと思われる内容が多いが、段々と実習生から話しかけた内容が報告されてくる。

### 日本語基本例文の暗唱と翻訳

毎月、日本語教材のN5,N4レベルの基本文章30～36文を実習生に課題として出し、通訳人と一緒に実習生を訪問する際、実習生に基本文章の暗唱と母国語への翻訳をしてもらっている。暗唱が上手にできる実習生は日本語の上達も早く、普段から日本語の勉強を頑張っているかの目安にもなっている（写真②）。

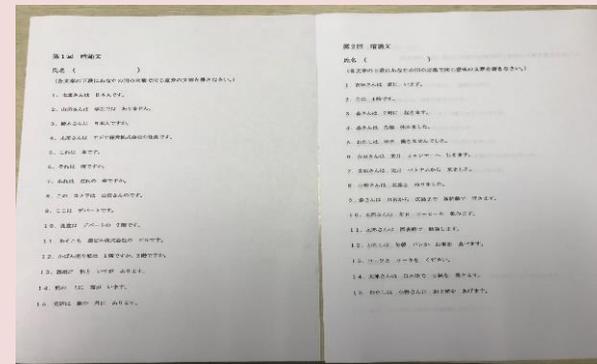
### 漢字練習

漢字を覚えるには筆順を知ることが大切であるという考えから、監理団体ではN5からN3レベルまでの漢字筆順表を作成し、漢字練習をもらっている（写真③）。

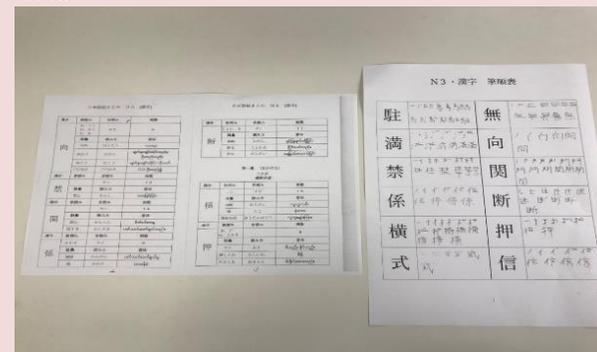
### 今後の展望

監理団体では日本語学習支援について、宿題に向き合う実習生の態度を測りながら、実習生それぞれに合った技能実習生活を探る手段としても活用している。実習生と勉強方法の話だけでなく、技能実習や生活に至るまで話題を広げ、様々な情報を得ることができている。今後、目標としている技能実習中のN3合格のため、宿題の内容や分量、自学自習の継続を促すための方策を検討している。

写真②



写真③



# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 東京都 ○監理団体

【実習生の国籍】ベトナム

【実習生の職種】耕種農業、畜産農業、建築大工、型枠施工、鉄筋施工、  
とび、建設機械施工、加熱性水産加工食品製造業、  
非加熱性水産加工食品製造業、パン製造、そう菜製造業、  
医療・福祉施設給食製造、プラスチック成形、塗装、自動車整備等

【ポイント】 ✓日本語作文コンクールや日本語能力試験の模擬試験等を通して、  
技能実習生の日本語能力向上を支援

### 日本語作文コンクール

JITCO（公益財団法人国際人材協力機構）が毎年実施している日本語作文コンクールを知り、監理団体でも実習生の日頃の日本語学習の成果を発表できる機会を作ろうと、2020年2月から日本語作文コンクールを始めた。第1回目の作文のテーマは自由とし、A4サイズ400字詰め原稿用紙3枚以内の本人自筆原稿と関連写真を募集したところ、34名の実習生から応募があった。選考の結果、最優秀賞1名に賞金1万円、優秀賞4名に賞金5千円、参加者全員に図書券とオリジナルボールペンを授与した。優秀作品は冊子にして実習実施者に配付した。そして、応募作品全てに講評を記載してから実習生に返却した。実習生が書いた作文には、家族への思いや望郷の念、将来の夢、どのような思い・決意で来日したか等が綴られており、監理団体では普段知ることのなかった実習生の気持ちを理解することに役立ち、また、大きな感動と元気をもらった。実習生は作文を書くことで日本語能力が向上し、自分の気持ちを見つめて整理し表現する良い経験になったと思う。

### 日本語能力試験の模擬試験および対策講座

日本語能力試験において、自分の実力よりも上のレベルを受験する実習生が多いため、監理団体では自分の現在のレベルを確かめ、勉強の励みにしてもらうことを目的として、2019年3月から模擬試験を実施している。模擬試験は地区ごとに実習実施者の会議室等を借りて実施している。第1回目のN2とN3の模擬試験は39名の実習生が受験した。模擬試験は過去の問題を利用して試験時間も合わせ、机の上には受験票と鉛筆と消しゴムだけを置いてもらう等、試験の受け方にも慣れてもらいたいため、本番と同じ様な状況で受験してもらった（写真①）。模擬試験終了後、隣の実習生と答案を交換し採点をしてもらい、成績順に1位から15位までを優秀者として発表した。そして、監理団体のベトナム人スタッフが学習法や教材の選び方を教える日本語能力試験対策講座を実施した（写真②）。2回目の模擬試験では試験終了後に交流会を開催した。交流会では警察署に講話を依頼して、実習生が巻き込まれる事件についての講義もしてもらい、実習生への注意喚起を行った。模擬試験の実施は、違う実習先や違う職種の実習生が一堂に会する機会にもなるので、顔を合わせて近況報告をする同窓会のような交流ができる場としての意義も大きいと思われる。

写真①



模擬試験

写真②



対策講座

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 香川県 P監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、インドネシア  
【実習生の職種】農業関係、建設関係、食品製造関係、塗装等

【ポイント】 ✓実習生と地域社会との交流を図るため、様々なイベントや体験活動を企画し、積極的に機会を提供

### アート作品展の企画

2020年9月、JICA四国と香川県青年海外協力協会の共催、香川県と県内各市国際交流協会の後援、監理団体等の協賛で在留外国人のアート作品展を開催した。同作品展は監理団体の職員が運営委員として企画・運営にあたった。開催したきっかけは多くの技能実習生が趣味として、写真、イラスト、クラフトアート、UVレジンによるキーホルダー、アクセサリーなどの制作に取り組んでいることを知り、作品を多くの人に知ってもらいたいと考えたことである。作品は平面部門（油彩・水彩・アクリル・日本画・版画など）、立体部門（彫刻・工芸・陶芸・手芸など）、写真部門の3部門で募集した。監理団体では実習実施者に案内すると同時に、SNSにより実習生に周知をした。実習生のSNSに素敵な写真が掲載されているのを見つけた際は、応募するよう声もかけた。また、監理団体で作品を集め、まとめて応募したり、大きな作品は運搬を手伝った。応募作品数は120ほどで、監理団体の実習生からは約70作品の応募があった。作品はJICA四国フリースペースと香川県国際交流会館で約3か月間交互に展示された。表彰式は11月7日に行なわれ、監理団体の実習生からは、平面部門の最優秀賞1名、写真部門の優秀賞2名、立体部門の優秀賞1名、香川県青年海外協力協会OB会賞1名の計5名が受賞した。この作品展を開催したことで、実習実施者は実習生に対する理解を深め、地域住民も実習生に親しみをもってもらえるなど有意義な機会となった（写真①）。

写真①



アート作品展表彰式

### 長寿大学の受講生に実習生がスピーチ、地元ケーブルテレビにも出演

2020年7月、さぬき市役所で開催した男女共同参画講演会で監理団体の職員が高齢者学級「生き生き長寿大学」の受講生に「世界はおもしろい！～香川からつながるひろがる国際交流の輪～」と題して講演をした。その中でインドネシア人実習生が、さぬき市の印象、嬉しかったこと、将来の夢などについて、日本語でスピーチをしたところ（写真②）、大変好評だったため、地元のケーブルテレビにも出演した。

写真②



「生き生き長寿大学」受講生へのスピーチ

# 技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例

外国人技能実習機構

## 香川県 P監理団体

### 小・中学校で母国の紙芝居を披露

教育委員会から依頼を受けたボランティアグループが、小・中学校で月に1回、朝の15分間に本を読み聞かせる活動を行っているところ、監理団体も参加することになり、2019年から実習生に紙芝居をしてもらっている。監理団体では毎回違う実習生にお願いをしており、当日までに日本語の練習時間を設け、発音指導やアドバイスをしている。紙芝居は10分間行い、残りの5分間は生徒からの質問に答える時間にして交流を図っている（写真③）。

写真③



中学校での紙芝居

### 小学校の授業で実習生がスピーチ

2021年1月、地元小学校からの依頼で監理団体の職員が環境教育の授業を行った。この授業の中でインドネシア人実習生2名にスピーチをもらった。授業の内容はゴミに関するもので、実習生たちは川ゴミの調査や母国のゴミ事情について生徒に分かりやすく説明をしていた（写真④）。

写真④



環境教育授業でのスピーチ

### 中学生と実習生がWeb会議ツールを通じて交流

2021年3月、地元中学校において、「YOUは何しに香川県へ？～地域で働く技能実習生について知ろう～」というタイトルで、中学生と実習生がWeb会議ツールを通じて交流するイベントを開催した。

イベントでは実習生の自己紹介、香川県の技能実習生について、インドネシアの紹介とクイズ、やさしい日本語についてのワークショップ、インドネシアの紙芝居、中学生から実習生へインタビューをもらった。インタビューでは活発に質問が出ていたが、実習生たちは緊張しながらも、しっかりと受け答えをしていた。今後、新型コロナウイルス感染症が収束したら、中学校を訪問して交流を深めたいと考えている。中学生にとっては国際理解を深める機会に、実習生にとっては日本人と交流をもつ良い機会となった（写真⑤⑥）。

写真⑤



写真⑥

